大会期間中は、ボランティアの皆さんを中心にスタッフ全員が全国から来町された選手を「おもてなし」し、スタッフによる「おもてなし」に対する選手からの評判も良く、会場ではボランティアや係員が選手と笑顔で触れ合っていました。

▲おもてなしボランティアの皆さん

▲学生ボランティアの皆さん

▲紙のこいのぼりと一緒に記念撮影

表　彰　式

最終日（28日）の表彰式では、入賞チームにメダルや土佐和紙の賞状が贈られたほか、特別表彰として、町特産の土佐和紙セットや新高梨が贈られました。選手が退場する時には、スタッフ総出でハイタッチによるお見送りをしました。

▲入賞チームには土佐和紙の賞状を授与

▲ハイタッチでお見送りしました。

奈良県代表の選手からは、「ハイタッチで思わず涙が止まりませんでした。皆さんの心配りが私たち選手にとって大きな感激になりました。」とのお便りもいただき、いの町の心あたたまる「おもてなし」により、大会は終了しました。

大会開催記念講演会・バレーボール教室

27日にはいの町での大会開催を記念して、前全日本女子バレーボールチーム監督の柳本晶一さんをお招きし、「人生、負け勝ち」というテーマで記念講演会を開催しました。講演会では、柳本さんの選手時代のエピソードから監督時代の裏話までを笑いを交えながらお話しいただきました。

講演会終了後には、伊野中学校体育館にてバレーボール教室を開催しました。教室には伊野中学校バレーボール部などの生徒約35名が参加し、柳本さんの指導を受けました。はじめは緊張気味の生徒たちでしたが、柳本さんの熱意あふれる指導に呼応するように、元気な声が体育館に響いていました。

▲真剣なまなざしで講演する柳本さん

▲「基本が大事」と、生徒に熱心に指導

教室では基本的な動作の重要性を指導し、参加した伊野中学校3年生の梅原彩夢さんは、「教え方が丁寧で分かりやすかった。高校生になっても学んだことを活かして頑張りたい。」と、笑顔で話してくれました。